

現在の千葉公園体育館

つげ、①市民総の(一部)の北側部分で、敷地面積は1万7063・60㎡、用途地域は第一種住居地域(建ぺい率60%、容積率200%)、第一種高度

暖房設備、多機能トイレ(オストメイト等)、雨水利用(トイレ洗浄用)、省エネルギー設備、防災関連設備(非常用電源設備、耐震性) 年生39人(男子37人、女子2人)を対象とした、2018年度測量実技講習会を同校において開催した。主催者あいさつで、小池毅会

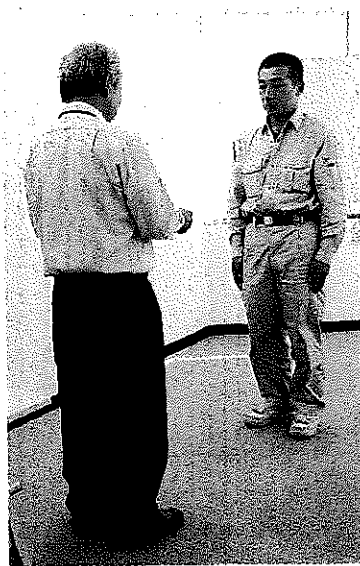
衛星測位などが発達しているものの、それを扱うのは人。人柄や生真面目さが成果に大きく反映される」と説明したうえで、「魅力を

い」と期待を寄せた。続いて、(株)千葉測器業所の日下部一也所長壇し「本日は一つでもの気付き、学びを得てだき、有意義な場になと思っている。測量に

### 県コンクリート製品協同組合

# 17工場に組合認定証

## 妥協許さぬ厳正な審査



保美理事長から組合認定証を交付

千葉県コンクリート製品協同組合(保美善和理事長)は先月26日、千葉市内の組合会議室で、技術懇談会(第一部)と技術研修会(第二部)を開いた。技術懇談会

では、2018年度組合認定工場検査の総評、認定審査結果報告に引き続き、対象となる17社に認定証を交付。技術研修会では、(一財)建材試験センター製品

認定本部の丸山慶一郎本部長を講師に招き、「分野別認定指針の改正と最近の課題をテーマに話を聞いた。同組合の認定工場制度は、1987年から共同受

注販売事業の一環として開始。当該製品の品質の向上と均一化を目的に、各工場を技術委員が実地検査し、認定工場推進委員会での厳正な審査を経て適格工場を認定するもの。約1か月をかけて行われる認定工場審査では、限られた時

間の中で外観、形状寸法、強度試験から管理書類などを確認。17工場が受審した本年度の認定工場検査の結果として「千葉県型側溝」17工場、「千葉県型側溝」14工場、「長尺U形」14工場を認定した。(3面に「認定工場一覧表」と技術懇談会参加者)

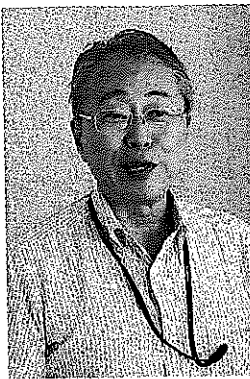
質の向上と均一化を生むうえで)有意義なもの」と言明。加えて「技術は1年1年、毎日毎日の積み重ねでもある。本日出席されたみなさんも、その技術で会社に貢献して頂きたい」と呼びかけ、あいさつとした。引き続き、技術委員会の伊藤進副委員長と小松幹夫委員が、本年度の組合認定工場検査の総評などを述べた後、保美理事長からの認定証交付に移った。

図るため、側溝及び側溝ふたの基本タイプを「千葉県型規格」として制定。その後、89年に深溝タイプの種類を追加し、99年に自動車荷重I-25への規格改正を経て現行規格とした。また「長尺U形」は、93年に県農林水産部により、施工管理での互換性や製造の合理化などを目的に規格化した。近年では、02年に県土木部(当時)において、千葉県型製品などをエコセメントの原則使用とし、認定工場をエコセメント製品に限定して普及を促進。また06年度には、県が土木工事標準仕様書等の改定により「エコセメントコンクリート二次製品の使用の明示及び確認」としたこと、使用セメントをエコセメントとポルトランドセメント等に区分し、認定を実施。今回の認定工場審査では、各工場の担当者による迅速かつ的確な対応により、日頃から品質管理を十分に行っていることが確認された。

保美理事長



丸山講師



伊藤・技術副委員長(左)と小松・同委員

均一化を生む 品質の向上と

品質の向上と均一化を生む 技術懇談会の冒頭で保美理事長(認定工場推進委員長)は、毎年5月から6月にかけて行う認定工場審査について「新年度のスタート時に、組合製品の製造でみなさんと技術を共有でき

千葉県型側溝など 同組合が認定品目として「千葉県型側溝及び蓋」は、1987年に県土木部(現・県土木整備部)が設計及び施工管理の合理化を

設計変更試問 間接費を対 利根川水系

利根川水系砂防工事、総合評価落札方式(工能力評価II型)と、告中の「H29谷沢川等道路法面対策ほか工事」について、労働者確保に